

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：24505

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22592601

研究課題名(和文)高齢者ケア施設における学士課程卒業者の高齢者看護実践能力を育成するシステムの構築

研究課題名(英文) Structuring of a System for Developing Gerontological Nursing Care Competencies of Graduate Nurses Working in Elderly Care Facilities

研究代表者

坪井 桂子 (TSUBOI, Keiko)

神戸市看護大学・看護学部・准教授

研究者番号：80335588

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円、(間接経費) 1,050,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、高齢者ケア施設に就業した学士課程卒業者に教育支援プログラムを用いた教育を実施・検証した上で高齢者看護の実践能力を育成するシステムを構築することである。介護老人保健施設における教育支援の実施・検証、特別養護老人ホームおよびロンドン、コペンハーゲンの大学・高齢者ケア施設の調査を実施した。その結果、高齢者看護の実践能力を育成するシステムを構築するには、新任期の看護師と支援者の看護師が共に学びあう態勢づくり、施設長の強力なリーダーシップのもとで誇りをもって働くことができるように、教育支援プログラムを活用した支援を実施し、評価することが重要であると示唆された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to structure a system for developing the gerontological nursing care competencies of graduate who are employed by elderly care facilities after implementing an education support program for them and then verifying the results thereof. We implemented education support for newly employed nurse in a geriatric health services and verified the feasibility of that program, and also conducted interview at a special nursing home for the elderly and elderly care facilities belonging to universities in London as well as Copenhagen. As a result, it was pointed out that it is important to implement support by using an education support program, create an environment wherein newly employed nurses and instructing nurses can learn mutually together, and create an organizational system whereby the nurses can work as nursing professionals with pride while the facility manager strongly performs his/her leadership.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：看護実践能力 新任期 教育支援 継続教育 高齢者ケア施設 介護老人保健施設 特別養護老人ホーム 療養型医療施設

## 1. 研究開始当初の背景

我が国では、高齢者人口の急速な増加に伴い、受療率の上昇、要介護高齢者および認知症高齢者が増加する中で、高齢者とその家族を対象とした看護へのニーズが高まっている。高齢者を対象とした看護では、発達理論に基づき、老年期の発達課題である人生の統合を支える看護が求められており、看護職一人ひとりが有する高齢者看護の実践能力による影響が大きい。

高齢者看護の実践能力については、アメリカの学士課程卒業時の高齢者看護の Competency が示された報告書 (AACN, 2000) があるのみであり、継続教育における高齢者看護の実践能力に関する報告はみあたらなかった。そこで、研究代表者は、学士課程卒業者の高齢者看護の実践能力の育成に関して萌芽研究 (平成 19~21 年度) の助成を受け下記に示す研究を実施した。

学士課程卒業者の高齢者看護の実践能力を高める教育支援を行うためには、まずはその内容を明確にする必要があると考え、学士課程における看護実践能力に関連した国内外の文献検討と老年看護学の教育・研究者からのスーパーバイズを受け、高齢者看護の実践能力を構成する項目 (大項目 12、中項目 31、小項目 121) を作成した (坪井, 2008)。次に、作成した項目を用いて、療養型医療施設 3 施設に卒業直後に就業した新任期 (1~3 年) の看護職者 6 名の高齢者看護の実践能力の修得状況と教育責任者 3 名の教育支援の状況を明らかにし、必要な教育支援方法を導き、高齢者看護の実践能力を高める教育支援プログラムを作成した。さらに、教育支援プログラムは療養型医療施設に就業する老人看護専門看護師および我が国で最も古くから学士課程卒業者の就業実績のある療養型医療施設の看護部長・副看護部長と検討を行い、教育支援に活用可能であることを確認した (坪井, 2009)。

作成した教育支援プログラムは、学士課程卒業者が卒業直後に高齢者ケア施設に就業した際に用いる準備をした段階で研究をいったん終え、検証には到っていない。したがって、今後、作成した教育支援プログラムを高齢者ケア施設において実施・検証し、高齢者看護の実践能力の育成のシステムを構築することは、入所者の重度化が進む高齢者ケア施設において、質の高い看護が求められている現状からも急務の課題であり、継続して研究に取り組み、成果を明示する必要があると考えた。

## 2. 研究の目的

高齢者看護の質を高める方策を考えていくために、卒業直後に高齢者ケア施設 (療養型医療施設、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム) に就業した学士課程卒業者に教育支援プログラムを用いた教育を実施・検証した上で高齢者看護の実践能力を育成するシ

ステムを構築することである。

## 3. 研究の方法

高齢者看護の実践能力を育成するシステムを構築するために、以下の 3 つの研究を行った。研究 1 として、介護老人保健施設に就業した学士課程卒業後新任期の看護師 1 名に教育支援プログラムに基づく支援を 3 年間実施し、プログラムの検証を行った。研究 2 として、特別養護老人ホームにおいて学士課程を卒業した新任期の看護師を育成するための要件を明らかにした。研究 3 として、ロンドン、コペンハーゲンの先駆的施設において教育を実践している老年看護学の教授、施設長 (看護師)、看護管理者に面接調査を実施し、学士課程卒業者の高齢者ケア施設における教育システム構築に関連する内容を明らかにした。

### 研究 1: 介護老人保健施設における新任期の看護師の高齢者看護実践能力の修得に向けた教育支援の実施とプログラムの検証

#### 教育支援の実際

A 介護老人保健施設において、高齢者看護の実践能力を育成する教育支援プログラムに基づいた教育支援を新任期の看護師に 3 年間実施した。教育支援の基盤となったプログラムは、高齢者看護の実践能力の 10 の大目標 (1.倫理的基盤に則り、高齢者個々の人権を擁護し、意思決定を支え、その人らしい生き方を支える援助ができる。2.高齢者の加齢や疾患、障害の影響を受けた生活機能や日常生活上の課題を家族を含め包括的にアセスメントし、必要な援助方法を計画立案・実施・評価できる。3.高齢者個々の生活機能に応じた自立や安全性を考え、必要な看護技術を適用できる。4.高齢者に起こりやすい事故の予防や発生時の対応などリスクマネジメントの観点から援助ができる。5.高齢者が罹りやすい疾病や特有の症状を理解し、個々の高齢者の健康課題に応じた援助を実践できる。6.認知症とともに生きる高齢者とその家族が尊厳ある療養生活を過ごせるように援助できる。7.高齢者と家族の関係性が発展できるように、療養生活や心身の状態に応じて家族への援助ができる。8.高齢者や家族のケアの向上のために、保健・医療・福祉の専門職や地域の人々と連携・協働し、看護職としての役割や責務を果たすことができる。9.人生の終末期にある高齢者とその家族の心身の苦痛や苦悩を緩和し、安寧に過ごせるようにし、高齢者の自己実現に向けた援助ができる。10.高齢者看護の専門性を高めるための自己研鑽や実践上の課題解決のための研究的な取り組みなどを行い、看護学の発展を追求することができる。) 各年次の到達目標、教育支援方法で構成している。このプログラムの特徴は、新任期の看護師と教育担当者が高齢者看護実践能力の目標を共有できること、教育担当者間で支援方法を共有し教育で

きること、面接により教育支援上の課題と取り組みを共有できることである。すなわち、従来のプログラムのよう教育支援する側が一方向的に方略を立てて支援する方法とは異なり、支援を受ける学習者参加型の教育支援を目指した。具体的な教育支援方法を以下に述べる。教育支援体制は、教育担当者1~2名、教育責任者(看護師長、2012年からは師長の退職に伴い看護主任が担当)1名、大学教員1名からなる。教育支援の期間は2010年4月~2013年3月まで3年間である。教育支援の方法は、看護実践をとおして振り返りの面接を行い、上記メンバーによる定期的な面接を実施し、高齢者看護の実践能力の10の大目標の修得状況、支援者の実施した教育支援の状況を共有した上で今後、施設および新任期の看護師の取り組みが必要な課題を検討した。面接終了後には、参加者が振り返りの記録を記述し、面接で明らかになった教育支援上の課題に取り組むこととした。評価は、大目標の修得状況、面接で見出された課題への取り組みとした。

#### 対象とデータ収集方法

教育支援プログラムの中核となる面接として、高齢者看護の実践能力の10の大目標の修得およびそのための教育支援の状況を把握した上で、取り組みが必要な課題を検討した。面接は、看護師1名、支援者2-3名、大学教員1名が参加し、8回実施した。参加者には毎回同意を得た上で、検討内容をICレコーダーに録音し逐語録を作成し、面接終了後には、参加者が振り返りの記録を記述し、データとした。

#### 面接の時期

平成22年6月~平成25年2月(入職後3、5、9、11、19、23、28、34か月)

#### 分析方法

逐語録より、高齢者看護の実践能力の10の目標について、修得状況を整理するとともに、取り組みが必要な教育支援上の課題を抽出、整理した。振り返りの記録より看護師、支援者の学びを抽出し、その内容を類似性に基づき分類・整理した。真実性を高めるために、共同研究者に分析結果を提示し、内容を確認した。

### 研究2: 特別養護老人ホームにおいて学士課程を卒業した新任期の看護師を育成するための要件の検討

#### 対象とデータ収集方法

老健において教育支援を実施した支援者1名、支援を受けた看護師1名、学士課程卒業後に療養型医療施設に就職した看護師1名、特養の施設長等看護責任者3名(1~2名ずつ参加)、大学教員2名の共同研究者が参加したグループ討議の内容をデータとした。討議は、平成25年9月に特養2施設で各1回実施し、1回に約2時間、「特養で新任期の学士課程卒業者の高齢者看護の実践能力を育成する際に必要なこと」をテーマに参加者の自

由な発言を促した。参加者には同意を得て、討議内容をICレコーダーに録音し逐語録を作成した。

#### 分析方法

逐語録の内容を類似性に基づき分類・整理した。真実性を高めるために、共同研究者に分析結果を提示し、内容を確認した。

### 研究3: ロンドン、コペンハーゲンの先駆的施設の看護職の面接調査

高齢者ケア施設の教育プログラムの開発者であるロンドン市内の大学教授1名、そのプログラムを適用している施設の施設長(看護師)1名、コペンハーゲンの2つの高齢者ケア施設の施設長(看護師)1名、看護管理者2名に面接調査を実施した。調査内容を記録し、高齢者看護の実践能力を育成するシステムを構築に関連する内容を抽出した。

#### 倫理的配慮

研究目的・方法、プライバシーの保護、研究参加は自由意思による等を研究開始前に口頭と文書で説明し、同意を得た上で実施した。岐阜県立看護大学論文倫理審査部会の承認を得て実施した。

## 4. 研究成果

### 研究1: 介護老人保健施設における新任期の看護師の高齢者看護実践能力の修得に向けた教育支援の実施とプログラムの検証

高齢者看護の実践能力の修得状況は目標ごとに違いがあり、修得に時間を要する目標として《高齢者に起こりやすい事故の予防や発生時の対応などリスクマネジメントの観点から援助ができる》が挙げられた。また、新任期の看護師に強化が必要な教育支援上の目標として、上記に加え、《倫理的基盤に則り、高齢者個々の人権を擁護し、意思決定を支え、その人らしい生き方を支える援助ができる》、《高齢者が罹りやすい疾病や特有の症状を理解し、個々の高齢者の健康課題に応じた援助を実践できる》、《認知症とともに生きる高齢者とその家族が尊厳ある療養生活を過ごせるように援助できる》《高齢者と家族の関係性が発展できるように、療養生活や心身の状態に応じて家族への援助ができる》、《人生の終末期にある高齢者とその家族の心身の苦痛や苦悩を緩和し、安寧に過ごせるようにし、高齢者の自己実現に向けた援助ができる》が挙げられた。

看護師の学びは、【強化が必要な課題が明確になったこと】【看護実践能力を高めるために必要な取り組みへの動機づけとなったこと】【自分の到達状況を知り、取り組みが必要な具体的な内容・方法を理解できたこと】【支援者が同席した面談では経験した事例と一緒に考えることができ理解しやすかったこと】等が挙げられた。支援者の学びは、【支援者間で教育支援上の課題を共有し、組織としての取り組みに繋がったこと】【到達

状況を適切に把握し、今後教育支援が必要な課題と方法が明らかになったこと】、【支援者としての自分の関わり方を振り返り、改善方法が見出せたこと】、【新任期の看護師と共に学ぶ必要がある内容を見出せたこと】等が挙げられた。

以上の結果より、3年間の教育支援は新任期の看護師、支援者双方の学びが得られた。そして、支援を通じて介護老人保健施設における新任期の看護師の重点課題が明らかになった。これらは、介護老人保健施設において新任期の看護師を教育支援する上で、プログラムの中核に置く必要があると考える。また、新任期の看護師と支援者が教育支援上の課題を共有する面接の実施は、課題解決に向けて具体的な方法を考え実践する上で有効と考えられ、本プログラムの特徴と考える。したがって、新任期の看護師の課題への取り組みへの教育支援を通じて、支援者の看護師が共に育つ組織づくりの必要性が示唆された。

## 研究2：特別養護老人ホームにおいて学士課程を卒業した新任期の看護師を育成するための要件の検討

特養において学士課程を卒業した新任期の看護師を育成するための要件は、【支援者と新任期の看護師が共に学び合い、誇りを持ち働く態勢づくり】として《新卒者が高齢者ケア施設に就職することへの偏見や思い込みを取り払い、受け入れる》、《安心して働くことができるように支援する環境をつくる》、《介護職から信頼され、連携・協働できるように、看護職の役割を明確にする》、《支援者が新任期の看護師と共に学ぶ姿勢で受け入れ育てる》、《老年看護のやりがい、楽しさ、いきがいをを感じる場で働くことに誇りを持つ》、【これまでの価値観や発想を転換した教育・研修の導入】として《高齢者ケア施設の看護に特化した教育支援プログラムやラダーを活用する》、《倫理を基盤とした看護実践能力を育成する》、《病院勤務の経験を重視した価値観や発想を転換した研修を導入する》、《学士課程で修得した看護実践能力を基盤に自ら課題に取り組み学べる強みを活かす》、《特養の看護に知的好奇心をもち、働く意欲を高められるように教育内容・方法を工夫する》、【臨床判断能力を高める支援体制づくり】として《必要とされる医療知識・技術を修得し、慢性的な経過の中での変化に介入できるようにする》、《急変時や夜間に医師と連携・協働できる環境が基盤にある》、《急変時や夜間オンコール時に適切な判断・対応ができる支援体制をつくる》、【老年看護のキャリア発達を促進する助言】として、《ゆらぎがちな看護師としての職業的アイデンティティを醸成する》、《キャリア発達を促す視点で就職を支援する》に整理された。

以上より、新任期の看護師を育成するための要件として、特養の看護職に求められる臨

床判断能力を高めるためには、支援者が一方的に新任期の看護師を指導するのではなく、共に学ぶことをとおして、施設における老年看護のやりがい、楽しさを共有し、揺らぎがちなアイデンティティを支え、働くことに誇りをもつ態勢づくりが重要と考えられた。そのためには、病院勤務の経験を重視したこれまでの価値観や発想を転換した教育・研修の導入が必要であり、支援者が創造的思考を持ち関わることを求められていると推察された。

## 研究3：ロンドン、コペンハーゲンの先駆的施設の看護職の面接調査

高齢者看護の実践能力を育成するシステムを構築に関連する内容として、【ケアの質やOJT(On The Job Training)、労働環境、WLB(Work Life Balance)が保障されていること】、【看護職の役割が明確であること】、【施設内外の研修が充実していること】、【看護師である施設長の強いリーダーシップが発揮されていること】、【看護師として誇りをもち働ける施設であること】が挙げられた。特に、高齢者の誇りある人生を支えるために、看護職として誇りをもって働くことは重要と考えられた。

## 結論

高齢者ケア施設において新任期の看護師の高齢者看護の実践能力を育成するシステムを構築するためには、教育支援プログラムを用いた支援の実施、新任期の看護師と支援者の看護師が共に学びあう態勢づくり、施設長が強いリーダーシップを発揮する中で看護職として誇りをもち働ける組織づくりが重要である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

坪井桂子：Special Feature 若手ナースがチャレンジ高齢者ケア施設への就職総論若手ナースの就職は本人・施設双方に発展のチャンス - 老健への就職を支援した事例から - , コミュニティケア 13(3);60-63,2011. (査読無)

坪井桂子, 鈴木真理子, 小野幸子, 沼本教子：イギリス&デンマークの高齢者ケア, コミュニティケア 14(13);49-56,2012. (査読無)

小野幸子, 坪井桂子, 鈴木真理子, 沼本教子：イギリス&デンマークの高齢者ケア(その2)尊厳を守るケアのための2つのツール, コミュニティケア 15(1);35-42,2013. (査読無)

坪井桂子：「高齢者看護の実践能力を育成する教育支援プログラム」を基盤とした3年間の支援, コミュニティケア 15(10);60-66,2013. (査読無)

坪井桂子, 清水昌美, 鈴木千枝, 沼本教

子：高齢者の療養生活支援の学びを深める教授内容と方法の検討 介護老人保健施設の若手看護師による特別講義の課題シートの分析 , 神戸市看護大学紀要 18 ; 65-72, 2014. (査読有)

宮城大学・看護学部・教授  
研究者番号：70204237

[学会発表](計5件)

坪井桂子, 横井恵子, 川崎陽子, 佐野弘美, 鈴木美也子, 小野幸子: 学士課程卒業者の新任期における高齢者看護の実践能力を育成する教育支援の検討 - 介護老人保健施設に就業した卒後3年目の看護師の教育支援の現状と課題 -, 日本老年看護学会第16回学術集会, 2011年6月16日, NSスカイカンファレンス他(東京).

Keiko Tsuboi, Sachiko Ono, Kyoko Numoto: An Evaluation of the issues related to Training Support Program for Enhancing Gerontological Nursing Care Competencies of Newly Recruited Graduate Nurses, The 9<sup>th</sup> International Conference of the Global Network of WHO, 2012年7月1日, ポートピアホテル(神戸).

坪井桂子, 川崎陽子, 稲垣万貴代, 小野幸子, 沼本教子: 新任期の看護師の高齢者看護実践能力の修得に向けた教育支援上の課題 - 介護老人保健施設就業後2年半の教育支援を通して -, 日本老年看護学会第18回学術集会, 2013年6月5日, 大阪国際会議場(大阪).

坪井桂子, 清水昌美, 鈴木千枝, 沼本教子: 高齢者の療養生活支援の学びを深める教授方法の検討 介護老人保健施設の若手看護師による講義の学びより 日本看護学教育学会第23回学術集会, 平成25年8月7日, 仙台国際センター(宮城).

坪井桂子, 沼本教子, 田中涼子, 田中智子, 石原弥栄美, 川崎陽子, 大野由貴, 山田理栄: 特別養護老人ホームにおいて学士課程を卒業した新任期の看護師を育成するための要件 - 支援者、新任期の看護師、特養の看護責任者によるグループ討議より -, 日本老年看護学会第19回学術集会, 2014年6月29日, 愛知県産業労働センターウインク愛知(愛知).

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

坪井 桂子 (TSUBOI, Keiko)  
神戸市看護大学・看護学部・准教授  
研究者番号：80335588

### (2) 研究分担者

沼本 教子 (NUMOTO, kyoko)  
神戸市看護大学・看護学部・教授  
研究者番号：00198558

小野 幸子 (ONO, Sachiko)